

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101102	
法人名	社会福祉法人安寿会	
事業所名	グループホームあわい	
所在地	松山市小川甲214番1	
自己評価作成日	平成27年5月29日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会	
所在地	松山市持田町三丁目8番15号	
訪問調査日	平成27年6月17日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりを大切にし、その方のこれまでの生活をできる限り続けていけるような場所でありたい。 個性を大事にして、自由にのびのびと暮らして頂けるように支援していく。 認知症となっても笑顔ですごすことが増えるような関わりを大切にできる関係づくりに努めている。 その人らしく個性を大切にした生活を送ることができることを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成26年5月に開設された事業所は、母体法人が病院や特別養護老人ホームなどを運営しており、開設1年であるにも関わらず、多くのノウハウを参考に質の高いケアが実施されている。地域住民の意見を聴取し、話し合いを繰り返しながら開設に至った経緯もあり、地域との絆も強く、運営推進会議や行事など多くの地区住民の協力が得られ、地域の施設として位置づけられている。脱「施設」を掲げ、家庭的な雰囲気を大切にしながらその人らしい個別ケアや、地域交流を大切にした生活の場づくりに取り組んでいる。開設と同時に就任した熱意ある管理者と職員間で気負わず話し合える信頼関係が築かれており、個々の職員が役割を持って業務に取り組めるよう配慮しながら、日々のケアに向き合っている。その中で、利用者は笑顔でゆったりと穏やかな時間を過ごすことができおり、今後の発展が大いに期待できる事業所である。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホームあわい

(ユニット名)

かなで

記入者(管理者)

氏 名

矢野多美

評価完了日

平成 27 年 5 月 29 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「地域社会への貢献」が自分達の役割として認識できるよう朝礼、終礼での理念復唱を行っている。各職員は意識づけてできている。また、グループホーム独自の理念は、スタッフ室に掲示している。 (外部評価) 法人の理念を事業所の理念として掲げ、それを土台に職員全体で話し合って、事業所独自の目標や行動方針を設定している。職員は、常に理念を意識できるように、施設全体の朝礼、終礼で唱和すると共に、日々の業務の中で互いに振り返りながら、理念の実践に務め、ケアの向上を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の方々への挨拶を日常的に心掛けている。利用者の方と一緒に洗濯物干しに外へ出る時など、ご近所の方とお話ができている。 (外部評価) 地区の文化祭等の地域の行事に参加したり、「地域支え愛の会」や「地域介護教室」、地域住民を対象にした勉強会を開催するなど、地域との交流を盛んに行っている。また、餅つき会、門松づくりを町内会、婦人会の協力を得て行っている。今年度から、地域交流を推進する部門が立ち上がり、そこに前区長が顧問として参加するなど、施設全体で地域に根付くための工夫と努力がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 「地域介護教室」という地域の方々を対象にした勉強会を開催し、事業所からの情報発信を行う場が作られている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向 上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、ご利用者やご家族か ら頂いた意見を参考にしながら、サービス内容を振り返 り、できることから改善を行っている。	
			(外部評価) 活発な意見交換ができるよう、利用者、家族、区長、公民 館長、民生委員、婦人会長、市職員や地域包括支援セン ター等に参加を呼びかけ、併設の特別養護老人ホームや小 規模多機能センターと合同で開催している。会議では、利 用者の状況及び活動状況報告を行った後、活発な意見交換 がされている。地域行事の情報を得たり、地区防災訓練を 合同で行う等の提案は必ず検討し、事業所のサービス向上 に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取組みを積極的 に伝えながら、協力関係を築くように取り組 んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加をして頂き、事業所の実情など積極的 に伝え、情報を得ている。	
			(外部評価) 運営推進会議や日頃の相談事を通して、気軽に相談できる 関係作りに努めている。地区で域包括支援センターと共催 して介護教室開催しており、今後、困難事例が発現しても 相談しやすい良好な関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理 解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束を しないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の行動の自由を奪うことがないように、言葉かけにも 気を付けている。日中、玄関の施錠はせず、外に出たい希 望は可能な限り、叶えるようにしている。	
			(外部評価) 研修会などで、身体拘束をしないケアについて考える機会 を設けることで、職員が拘束の具体的な行為を正しく理解 し、共有できるよう努めている。外出願望のある利用者へ の対応を工夫したり、地域住民に協力してもらって離所訓 練を実施するなどして、利用者の自由な暮らしを支えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止について、勉強会などで学ぶ機会をつくり、日々の自分たちの言葉や行動が虐待に繋がらないか注意をしながらケアにあたっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在対象者がおられず実施できていないが、今後知識を深めていく予定としている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者からの十分な説明を行っており、契約を結ぶ際にも、その後も不安や疑問点に丁寧にお答えするよう心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営に関して、利用者、家族から意見や要望があれば、受け入れるようにしている。家族会も開催し、意見、要望をより引き出せるようにしていく。 (外部評価) 職員は、面会時や行事等の際には、家族から意見が出やすいように、話しやすい雰囲気を作る工夫をしている。また、家族会を年2回開催する計画を立てており、昨年は、クリスマス会・忘年会を兼ねて開催し、事業所に入居するまでの利用者の様子を聞いたり、家族同士の会話が弾むなど、事業所と家族との信頼関係が深まる良い機会となった。管理者は、話し合った内容を運営に反映させたいと考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員からの意見を聞いて運営に生かされている。代表者と管理者それぞれとの面談が設けられている。職員一人ひとりの話をよく聞かれている。 (外部評価) 施設長や管理者は、年3回の個別面談を通して、職員の意見を聴く機会を設けている。さらに、管理者は日頃から職員の表情を見ながら声をかけ、意見が言いやすい関係を築く努力をしている。管理者自身も2年目であるが、系列事業所の管理者や同僚に気軽に相談できる環境となっており、施設全体で働きやすい環境作りに取り組んでいることが伺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員個々の日々の業務態度をよく把握している。各自がやりがいと意欲を持って働けるように環境整備に努められている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月法人内で勉強会を実施しており、職員一人一人のケアの質の向上を目指している。働きながら、勉強や研修ができるようすすめられている。今年度より、自己啓発勉強会も実施してく。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同法人内に事業所が複数あり、法人勉強会などで交流する機会がある。自分たちのサービスの質を向上させられるよう意識をしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 新しい環境に入居してこられ、不安も抱えられておられる状態なので、心情を察しながら、こまめに声をかけるように、話に耳を傾けるように、心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居された本人同様、家族なども様々な不安や希望を持っておられる為、何でも話しやすい雰囲気作りをしている。また、生活の様子を電話や面会時に伝えている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時オリエンテーションを行い、必要とされている事を優先して入所時ケアプランに取り入れ、支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理の得意ではない職員は、一緒に料理をさせてもらったり、ご本人の長年の経験や知識を活かし、教わっていることが多い。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人にとって、家族との絆にかえられるものはないので、その絆を大切にしながら、連携がとれるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人がこれまで大切にされてきた家族、友人、知人と過ごされる時間を大事にしている。また、ご自宅や家族宅などへの外出、外泊も支援している。 (外部評価) 利用者を支えてくれた地域の人間関係などを、利用者や家族から聴取し、思いを把握しながら個別ケアに努めている。事業所のある地区から入居した利用者も多く、小学校同窓会のグループができるなど、利用者が大切にしてきた関係が途切れないよう支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の相性やお互いの気持ちなどを観察するようにしている。お互いに思いやり、声をかけたり教えあったりする良好な関係作りができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 病院に入院となり、グループホームを退去された利用者や家族の面会に行かせて頂くなど、これまでの関係性を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) これまで暮らして来られた長年の生活について、知る努力をして、その方の望む生活がどのようなものかを理解していき、実現に繋げていく。 (外部評価) 日常の会話から思いや希望を把握しようと努めている。また、家族から情報を得たことを「入居者情報共有シート」に記録して職員間で共有し、利用者がどのような暮らしを希望しているかを考え、個別ケアに取り組んでいる。また、声かけやコミュニケーションを通して信頼関係を構築しながら、言葉にしづらい思いを汲み取り、利用者の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの暮らしはどうであったか、ご本人や家族、友人、知人等から情報を集めていけるようお話を聞いたり、情報シートに記入をして頂いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の過ごし方や心身の状態については、カルテに経過記録、熱計表への記録として残し、細かく把握できるようにしている。有する力の活用にも努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は、本人を中心として家族、知人、ケアに関わる職員などで話し合いを行い、現状でのより良い生活を目指して立案されている。 (外部評価) 利用者の担当制を取ることで、利用者や家族の思いや意向を介護計画に反映し、利用者本位の個別計画になるよう留意されている。介護計画は、定期的に職員間で話し合いをしながら見直しを行ない、利用者の現状に即したケアを実践している。	担当外の利用者の介護計画を把握しづらく、計画に沿ったケアが実施できたかを職員が実感しにくい様子が伺われる。また、日々のモニタリングは、経過記録と共に記載されているため、担当外の利用者の計画実施状況を把握しづらい状況となっている。個別ケアに留意した良い介護計画が作成されているので、その内容を全職員が共有して実践し、より質の高いケアになることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録の中でも、特に本人の言葉や表情をありのままに記入するようにしている。その上での気づきを次の実践や介護計画に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 帰宅願望の強い方には、自宅周辺を目指してドライブを行ったり、家族と共に病院への通院介助を行ったりと柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のお祭りに参加させていただき、獅子舞いやだんじりを目の前で見てもらうことで活力が湧き、また、地域の方とも交流を図ることができている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、 納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係 を築きながら、適切な医療を受けられるよう に支援している	(自己評価) かかりつけ医が決まっている方は、家族の協力を得て受診 して頂き、適切な医療が受けられるようにしている。 主治医が協力病院の場合は、二週間に一度訪問診療を受け られている。	
			(外部評価) 利用者及び家族が希望するかかりつけ医を受診できるよう 支援している。協力医をかかりつけ医としている利用者は 月2回訪問診療を受けることができる。入居前のかかりつ け医に通院する際は、基本的に家族が付き添い、受診内容 については家族からの報告を受け、経過記録に記入して共 有を図っている。インフルエンザ予防接種などは、協力医 がかかりつけ医と連携をしながら対応しており、安心して 医療が受けられる環境となっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護 師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な 受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 介護職員は、日々の中での気づきを看護職員に伝え、早め の処置や受診など、適切な対応が出来るようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるよ うに、病院関係者との情報交換や相談に努め ている。または、そうした場合に備えて病院 関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 管理者が病院関係者との関係作りをしており、こまめに情 報交換や相談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、 早い段階から本人・家族等と話し合いを行 い、事業所でできることを十分に説明しな がら方針を共有し、地域の関係者と共にチーム で支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在、ターミナルケアの対象者はおられないが、マニユ アルを作成し、家族に説明し、理解を得ている。また、勉強 会でも取り上げ、職員全員で方針を共有していく。	
			(外部評価) 自己評価の時点では、終末期を迎えている利用者がいな かったが、現在はいるので、家族の安心と納得が得られる ように、話し合いを繰り返しながら関係者で連携し合っ てケアにあたっている。重度化し医療行為が必要となれば、 対応できる医療機関や施設の紹介ができる体制が整ってい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時、事故発生時の対応方法について、グループホームの勉強会で学び、実際の現場で活かせるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策訓練に参加しており、全職員が避難指示、誘導が出来るようにしている。(年二回実施予定) 地域の方も訓練に参加していただき、協力関係作りに努めている。 (外部評価) 防災訓練は地区住民に参加してもらい、併設施設と一緒にやっている。施設全体の災害マニュアルがあり、災害時には、併設施設の職員や地区の自主防災組織の協力を得られる体制が整っている。事業所は、耐震性のある建物のため、地区の福祉避難所となっており、備蓄や設備を活用してもらえる相互協力体制が築けている。	災害時にはいつでも地域住民や併設施設の職員の協力が得られるという状況にあるが、実際の災害時に対応するのは現場の職員であるため、常に職員の意識を高めておく必要があると考える。いざという時の万全の対策のためにも、土砂災害など火災以外の災害訓練や、予告なしの夜間緊急連絡訓練の実施など、災害発生時にすばやく対応できる体制が整えられることを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 相手の立場に立った声掛けや対応を心掛けており、一人ひとりの利用者には、尊敬の気持ちを持って接することとしている。 (外部評価) 理念に掲げる「尊敬の気持ち」を念頭におき、言葉かけやケアについて、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮しながら対応するよう努力している。また「入居者情報共有シート」を活用し、利用者への対応について随時共有できるよう工夫をしながら支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人の気持ちがお聞きできる場合は、意見を言ってもらい、言葉で聞くことが難しい場合は表情や行動等から汲み取るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとり生活のペースや、習慣が違うが、その方のペースや習慣をできる限り守りながら、暮らしていけるよう希望に沿い、対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみとして、着る服を選んで頂いたり、お化粧をする習慣がある方には続けていただけるよう支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事のメニューを作る際に、好みや希望をお聞きし、取り入れている。準備を手伝って頂いたり、職員も一緒に食卓を囲み、楽しく食事をしている。 (外部評価) 献立は、職員が利用者の好みや季節のものを取り入れながら立てているが、近所からたけのこなど旬の物の差し入れがあれば、それらをメニューに加えたりしながら柔軟に変更されている。職員も一緒にテーブルを囲み、食べ始めるタイミングは個々のペースに合わせるなどし、食事が楽しいものになるよう配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分摂取量の記録をしており、一日のトータル量を確認できるようにしている。摂取量の少ない方にはこまめに水分補給を勧めるなど対応をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の歯磨きができる方には毎食後声掛けを行い、介助が必要な方には、一緒に洗面所まで行き、必要なお手伝いをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 出来るだけオムツ、パットを使用せず過ごして頂けることを目指して、必要最小限の使用にしている。トイレの声掛け、誘導をこまめに行いトイレでの排泄を行っている。	
			(外部評価) トイレとおむつ処理室が別になっており、利用者が安全で快適に排泄できるような構造となっている。利用者一人ひとりの排泄パターンのチェックを行い、その人にあった排泄リズムを把握しトイレ誘導等を行っている。排泄課題を持つ利用者に対しては、ユニット会議で話し合いながら、利用者の尊厳や誇りを大切にしたいケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取量が少なくならないように、こまめに補給を行い、お通じのよくなるお茶や牛乳、ヨーグルトの提供を普段から行っている。運動をする機会も作っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日はある程度決めているが、本人の希望や都合にあわせて柔軟に対応をしている。時間帯についても、ご本人の希望を聞き、できるだけ希望に沿えるように対応をしている。	
			(外部評価) 入浴は週2回が基本だが、できる限り本人の希望に合わせてながら、夜間入浴など柔軟に対応をしている。入浴を嫌がる利用者については、家族の協力を得たり、声かけなどを工夫しながら、入浴したい気持ちになるように見守りながら支援している。異性介助にも配慮をしながら対応を工夫し、気持ち良く入浴できるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣やその日の状態により、寝る時間や睡眠状態が変わってくるが、その時々に応じてゆっくりと休んで頂けるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 使用している薬の目的、副作用、用法、用量の理解をして、服薬の支援を行うようにしている。症状の変化についても観察し、記録に残している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの好きなこと、楽しいことを引き出し、それによって気分転換ができるように支援をしている。外出や散歩、おやつ作りやゲームなど実施している。その時の気分に合わせて、無理強いをしないようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 「外に出てみたい」という希望には職員と共に外に出て、気分転換が出来るように支援をしている。また、ご家族の協力を得て、外出が出来るように支援をしている。	
			(外部評価) 利用者の希望や季節に合った外出計画を立て、月1回は外出するようにしているが、個々の希望に合わせた個別外出支援にも力を入れている。足湯や近隣のコンビニの利用など、日常生活の中で柔軟に対応し、利用者の意欲や生活の張り合いになるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご自分で管理される方には、説明をし、ご家族の了解を得た上で、本人管理としている。お小遣いとして、預かる場合は、委任状を提出していただき、使用の際も、本人、家族に確認をしている。また、出納簿に個別に記録をし、管理をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時、家族などへ電話をかける支援をしている。手紙のやり取りも自由に行うことができる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者が気持ちよく生活できるように、共用の空間が落ち着いたものであるよう、配慮している。季節を感じられるような草花や飾りを置き、目に入るよう工夫している。 (外部評価) 窓から明るい陽射しが差し込み、日中はリビングで作業をしたり、食事の下ごしらえをしたりと、各々が自由に過ごせるスペースとなっている。利用者と一緒に作ったという壁紙の飾りつけには、季節感とユニット毎の一体感があり、自分の家だという意識が高められるような空間づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間の中で、その方が過ごしやすい場所は何処かを見つけ周囲の方との相性なども考慮しながら、寛げる環境が作れるようにしている。、	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、その方が長年使い、愛用していた物や好みのもを配置して、自宅のように居心地よく過ごすことが出来るように工夫をしている。 (外部評価) 広めの居室には、エアコンやベッド、椅子が備え付けられているが、使い慣れた家具やテレビを持ち込むことができ、その人らしい生活が継続できるよう工夫されている。若い頃に趣味で掘ったという仏像を飾っている利用者もあり、自分らしく落ち着ける空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下には手すりを設置したり、できる限りバリアフリーとしている。見やすい所にカレンダーを設置している。また、ご自分で出来ることを奪わないケアを心掛け、ご自分で出来ることは、時間がかかっても気長に待つケアを行っている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101102
法人名	社会福祉法人安寿会
事業所名	グループホームあわい
所在地	松山市小川甲214番1
自己評価作成日	平成27年5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年6月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症となっても笑顔で過ごすことが増えるような関わりを大切にできる関係づくりに努めている。 その人らしく個性を大切にした生活を送ることができることを目指している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成26年5月に開設された事業所は、母体法人が病院や特別養護老人ホームなどを運営しており、開設1年であるにも関わらず、多くのノウハウを参考に質の高いケアが実施されている。地域住民の意見を聴取し、話し合いを繰り返しながら開設に至った経緯もあり、地域との絆も強く、運営推進会議や行事など多くの地区住民の協力が得られ、地域の施設として位置づけられている。脱「施設」を掲げ、家庭的な雰囲気を大切にしながらその人らしい個別ケアや、地域交流を大切にした生活の場づくりに取り組んでいる。開設と同時に就任した熱意ある管理者と職員間で気負わず話し合える信頼関係が築かれており、個々の職員が役割を持って業務に取り組めるよう配慮しながら、日々のケアに向き合っている。その中で、利用者は笑顔でゆったりと穏やかな時間を過ごすことができおり、今後の発展が大いに期待できる事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあわい

(ユニット名) ほのか

記入者(管理者)
氏 名 矢野多美

評価完了日 平成 27 年 5 月 29 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を 共有して実践につなげている	(自己評価) 「地域社会への貢献」が自分達の役割として認識できるよう朝礼、終礼での理念復唱を行っている。各職員は意識づけができています。また、グループホーム独自の理念は、スタッフ室に掲示している。 (外部評価) 法人の理念を事業所の理念として掲げ、それを土台に職員全体で話し合っ、事業所独自の目標や行動方針を設定している。職員は、常に理念を意識できるように、施設全体の朝礼、終礼で唱和すると共に、日々の業務の中で互いに振り返りながら、理念の実践に務め、ケアの向上を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の方々への挨拶を日常的に心掛けている。利用者の方と一緒に洗濯物干しに外へ出る時など、ご近所の方とお話ができている。 (外部評価) 地区の文化祭等の地域の行事に参加したり、「地域支え愛の会」や「地域介護教室」、地域住民を対象にした勉強会を開催するなど、地域との交流を盛んに行っている。また、餅つき会、門松づくりを町内会、婦人会の協力を得て行っている。今年度から、地域交流を推進する部門が立ち上がり、そこに前区長が顧問として参加するなど、施設全体で地域に根付くための工夫と努力がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 「地域介護教室」という地域の方々を対象にした勉強会を開催し、事業所からの情報発信を行う場がつけられている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向 上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、ご利用者やご家族 から頂いた意見を参考にしながら、サービス内容を振 り返り、できることから改善を行っている。	
			(外部評価) 活発な意見交換ができるよう、利用者、家族、区長、 公民館長、民生委員、婦人会長、市職員や地域包括支 援センター等に参加を呼びかけ、併設の特別養護老人 ホームや小規模多機能センターと合同で開催してい る。会議では、利用者の状況及び活動状況報告を行っ た後、活発な意見交換がされている。地域行事の情報 を得たり、地区防災訓練を合同で行う等の提案は必ず 検討し、事業所のサービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取組みを積極的 に伝えながら、協力関係を築くように取り組 んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加をして頂き、事業所の実情など積 極的に伝え、情報を得ている。	
			(外部評価) 運営推進会議や日頃の相談事を通して、気軽に相談で きる関係作りに努めている。地区で域包括支援セン ターと共催して介護教室開催しており、今後、困難事 例が発現しても相談しやすい良好な関係が構築されて いる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理 解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束を しないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の行動の自由を奪うことがないように、言葉かけ にも気を付けている。日中、玄関の施錠はせず、外に 出たい希望は可能な限り、叶えるようにしている。	
			(外部評価) 研修会などで、身体拘束をしないケアについて考える 機会を設けることで、職員が拘束の具体的な行為を正 しく理解し、共有できるよう努めている。外出願望の ある利用者への対応を工夫したり、地域住民に協力し てもらって離所訓練を実施するなどして、利用者の自 由な暮らしを支えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止について、勉強会などで学ぶ機会をつくり、日々の自分たちの言葉や行動が虐待に繋がらないか注意をしながらケアにあたっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在対象者がおられず実施できていないが、今後知識を深めていく予定としている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者からの十分な説明を行っており、契約を結ぶ際にも、その後も不安や疑問点に丁寧にお答えするよう心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営に関して、利用者、家族から意見や要望があれば、受け入れるようにしている。家族会も開催し、意見、要望をより引き出せるようにしていく。 (外部評価) 職員は、面会時や行事等の際には、家族から意見が出やすいように、話しやすい雰囲気を作る工夫をしている。また、家族会を年2回開催する計画を立てており、昨年は、クリスマス会・忘年会を兼ねて開催し、事業所に入居するまでの利用者の様子を聞いたり、家族同士の会話が弾むなど、事業所と家族との信頼関係が深まる良い機会となった。管理者は、話し合った内容を運営に反映させたいと考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員からの意見を聞いて運営に生かされている。代表者と管理者それぞれとの面談が設けられている。職員一人ひとりの話をよく聞かれている。 (外部評価) 施設長や管理者は、年3回の個別面談を通して、職員の意見を聴く機会を設けている。さらに、管理者は日頃から職員の表情を見ながら声をかけ、意見が言いやすい関係を築く努力をしている。管理者自身も2年目であるが、系列事業所の管理者や同僚に気軽に相談できる環境となっており、施設全体で働きやすい環境作りに取り組んでいることが伺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員個々の日々の業務態度をよく把握している。各自がやりがいと意欲を持って働けるように環境整備に努められている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月法人内で勉強会を実施しており、職員一人一人のケアの質の向上を目指している。働きながら、勉強や研修ができるようすすめられている。今年度より、自己啓発勉強会も実施してく。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同法人内に事業所が複数あり、法人勉強会などで交流する機会がある。自分たちのサービスの質を向上させられるよう意識をしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 新しい環境に入居してこれ、不安も抱えられておられる状態なので、心情を察しながら、こまめに声をかけるように、話に耳を傾けるように、心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居された本人同様、家族なども様々な不安や希望を持っておられる為、何でも話しやすい雰囲気作りをしている。また、生活の様子を電話や面会時に伝えている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時オリエンテーションを行い、必要とされている事を優先して入所時ケアプランに取り入れ、支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理の得意ではない職員は、一緒に料理をさせてもらったり、ご本人の長年の経験や知識を活かし、教わっていることが多い。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人にとって、家族との絆にかえられるものはないので、その絆を大切にしながら、連携がとれるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人がこれまで大切にされてきた家族、友人、知人と過ごされる時間を大事にしている。また、ご自宅や家族宅などへの外出、外泊も支援している。 (外部評価) 利用者を支えてくれた地域の人間関係などを、利用者や家族から聴取し、思いを把握しながら個別ケアに努めている。事業所のある地区から入居した利用者も多く、小学校同窓会のグループができるなど、利用者が大切にしてきた関係が途切れないよう支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の相性やお互いの気持ちなどを観察するようにしている。お互いに思いやり、声をかけたり教えあったりする良好な関係作りができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 病院に入院となり、グループホームを退去された利用者や家族の面会に行かせて頂くなど、これまでの関係性を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) これまで暮らして来られた長年の生活について、知る努力をして、その方の望む生活がどのようなものかを理解していき、実現に繋げていく。 (外部評価) 日常の会話から思いや希望を把握しようと努めている。また、家族から情報を得たことを「入居者情報共有シート」に記録して職員間で共有し、利用者がどのような暮らしを希望しているかを考え、個別ケアに取り組んでいる。また、声かけやコミュニケーションを通して信頼関係を構築しながら、言葉にしづらい思いを汲み取り、利用者の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの暮らしはどうであったか、ご本人や家族、友人、知人等から情報を集めていけるようお話を聞いたり、情報シートに記入をして頂いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の過ごし方や心身の状態については、カルテに経過記録、熱計表への記録として残し、細かく把握できるようにしている。有する力の活用にも努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は、本人を中心として家族、知人、ケアに関わる職員などで話し合いを行い、現状でのより良い生活を目指して立案されている。 (外部評価) 利用者の担当制を取ることで、利用者や家族の思いや意向を介護計画に反映し、利用者本位の個別計画になるよう留意されている。介護計画は、定期的に職員間で話し合いをしながら見直しを行ない、利用者の現状に即したケアを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録の中でも、特に本人の言葉や表情をありのままに記入するようにしている。その上での気づきを次の実践や介護計画に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 帰宅願望の強い方には、自宅周辺を目指してドライブを行ったり、家族と共に病院への通院介助を行ったりと柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のお祭りに参加させていただき、獅子舞いやだんじりを目の前で見せてもらうことで活力が湧き、また、地域の方とも交流を図ることができている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、 納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係 を築きながら、適切な医療を受けられるよう に支援している	(自己評価) かかりつけ医が決まっている方は、家族の協力を得て 受診して頂き、適切な医療が受けられるようにしてい る。 主治医が協力病院の場合は、二週間に一度訪問診療を 受けられている。 (外部評価) 利用者及び家族が希望するかかりつけ医を受診でき るよう支援している。協力医をかかりつけ医としている 利用者は月2回訪問診療を受けることができる。入居 前のかかりつけ医に通院する際は、基本的に家族が付 き添い、受診内容については家族からの報告を受け、 経過記録に記入して共有を図っている。インフルエン ザ予防接種などは、協力医がかかりつけ医と連携をし ながら対応しており、安心して医療が受けられる環境 となっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護 師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な 受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 介護職員は、日々の中での気づきを看護職員に伝え、 早めの処置や受診など、適切な対応が出来るようにし ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるよ うに、病院関係者との情報交換や相談に努め ている。または、そうした場合に備えて病院 関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 管理者が病院関係者との関係作りをしており、こまめ に情報交換や相談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、 早い段階から本人・家族等と話し合いを行 い、事業所でできることを十分に説明しな がら方針を共有し、地域の関係者と共にチ ームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在、ターミナルケアの対象者はおられないが、マ ニュアルを作成し、家族に説明し、理解を得ている。 また、勉強会でも取り上げ、職員全員で方針を共有し ていく。 (外部評価) 自己評価の時点では、終末期を迎えている利用者がい なかったが、現在はいるので、家族の安心と納得が得 られるように、話し合いを繰り返しながら関係者で連 携し合ってケアにあたっている。重度化し医療行為が 必要となれば、対応できる医療機関や施設の紹介がで きる体制が整っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時、事故発生時の対応方法について、グループホームの勉強会で学び、実際の現場で活かせるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策訓練に参加しており、全職員が避難指示、誘導が出来るようにしている。(年二回実施予定) 地域の方も訓練に参加していただき、協力関係作りに努めている。 (外部評価) 防災訓練は地区住民に参加してもらい、併設施設と一緒にやっている。施設全体の災害マニュアルがあり、災害時には、併設施設の職員や地区の自主防災組織の協力を得られる体制が整っている。事業所は、耐震性のある建物のため、地区の福祉避難所となっており、備蓄や設備を活用してもらえる相互協力体制が築けている。	災害時にはいつでも地域住民や併設施設の職員の協力が得られるという状況にあるが、実際の災害時に対応するのは現場の職員であるため、常に職員の意識を高めておく必要があると考える。いざという時の万全の対策のためにも、土砂災害など火災以外の災害訓練や、予告なしの夜間緊急連絡訓練の実施など、災害発生時にすばやく対応できる体制が整えられることを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 相手の立場に立った声掛けや対応を心掛けており、一人ひとりの利用者には、尊敬の気持ちを持って接することとしている。 (外部評価) 理念に掲げる「尊敬の気持ち」を念頭におき、言葉かけやケアについて、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮しながら対応するよう努力している。また「入居者情報共有シート」を活用し、利用者への対応について随時共有できるよう工夫をしながら支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人の気持ちがお聞きできる場合は、意見を言ってもらい、言葉で聞くことが難しい場合は表情や行動等から汲み取るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとり生活のペースや、習慣が違うが、その方のペースや習慣をできる限り守りながら、暮らしていけるよう希望に沿い、対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみとして、着る服を選んで頂いたり、お化粧をする習慣がある方には続けていただけるよう支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事のメニューを作る際に、好みや希望をお聞きし、取り入れている。準備を手伝って頂いたり、職員も一緒に食卓を囲み、楽しく食事をしている。 (外部評価) 献立は、職員が利用者の好みや季節のものを取り入れながら立てているが、近所からたけのこなど旬の物の差し入れがあれば、それらをメニューに加えたりしながら柔軟に変更されている。職員も一緒にテーブルを囲み、食べ始めるタイミングは個々のペースに合わせるなどし、食事が楽しいものになるよう配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分摂取量の記録をしており、一日のトータル量を確認できるようにしている。摂取量の少ない方にはこまめに水分補給を勧めるなど対応をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の歯磨きができる方には毎食後声掛けを行い、介助が必要な方には、一緒に洗面所まで行き、必要なお手伝いをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 出来るだけオムツ、パットを使用せず過ごして頂けることを目指して、必要最小限の使用にしている。トイレの声掛け、誘導をこまめに行いトイレでの排泄を行っている。	
			(外部評価) トイレとおむつ処理室が別になっており、利用者が安全で快適に排泄できるような構造となっている。利用者一人ひとりの排泄パターンのチェックを行い、その人にあった排泄リズムを把握しトイレ誘導等を行っている。排泄課題を持つ利用者に対しては、ユニット会議で話し合いながら、利用者の尊厳や誇りを大切にしたいケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取量が少なくなないように、こまめに補給を行い、お通じのよくなるお茶や牛乳、ヨーグルトの提供を普段から行っている。運動をする機会も作っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日はある程度決めているが、本人の希望や都合にあわせて柔軟に対応をしている。時間帯についても、ご本人の希望を聞き、できるだけ希望に沿えるように対応をしている。	
			(外部評価) 入浴は週2回が基本だが、できる限り本人の希望に合わせてながら、夜間入浴など柔軟に対応をしている。入浴を嫌がる利用者については、家族の協力を得たり、声かけなどを工夫しながら、入浴したい気持ちになるように見守りながら支援している。異性介助にも配慮をしながら対応を工夫し、気持ち良く入浴できるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣やその日の状態により、寝る時間や睡眠状態が変わってくるが、その時々に応じてゆっくりと休んで頂けるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 使用している薬の目的、副作用、用法、用量の理解をして、服薬の支援を行うようにしている。症状の変化についても観察し、記録に残している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの好きなこと、楽しみなことを引き出し、それによって気分転換ができるように支援をしている。外出や散歩、おやつ作りやゲームなど実施している。その時の気分に合わせて、無理強いをしないようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 「外に出てみたい」という希望には職員と共に外に出て、気分転換が出来るように支援をしている。また、ご家族の協力を得て、外出が出来るように支援をしている。	
			(外部評価) 利用者の希望や季節に合った外出計画を立て、月1回は外出するようにしているが、個々の希望に合わせた個別外出支援にも力を入れている。足湯や近隣のコンビニの利用など、日常生活の中で柔軟に対応し、利用者の意欲や生活の張り合いになるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご自分で管理される方には、説明をし、ご家族の了解を得た上で、本人管理としている。お小遣いとして、預かる場合は、委任状を提出していただき、使用の際も、本人、家族に確認をしている。また、出納簿に個別に記録をし、管理をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時、家族などへ電話をかける支援をしている。手紙のやり取りも自由に行うことができる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者が気持ちよく生活できるように、共用の空間が落ち着いたものであるよう、配慮している。季節を感じられるような草花や飾りを置き、目に入るよう工夫している。 (外部評価) 窓から明るい陽射しが差し込み、日中はリビングで作業をしたり、食事の下ごしらえをしたりと、各々が自由に過ごせるスペースとなっている。利用者と一緒に作ったという壁紙の飾りつけには、季節感とユニット毎の一体感があり、自分の家だという意識が高められるような空間づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間の中で、その方が過ごしやすい場所は何処かを見つけ周囲の方との相性なども考慮しながら、寛げる環境がつくれるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、その方が長年使い、愛用していた物や好みのものを配置して、自宅のように居心地よく過ごすことが出来るように工夫をしている。 (外部評価) 広めの居室には、エアコンやベッド、椅子が備え付けられているが、使い慣れた家具やテレビを持ち込むことができ、その人らしい生活が継続できるよう工夫されている。若い頃に趣味で掘ったという仏像を飾っている利用者もあり、自分らしく落ち着ける空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下には手すりを設置したり、できる限りバリアフリーとしている。見やすい所にカレンダーを設置している。また、ご自分で出来ることを奪わないケアを心掛け、ご自分で出来ることは、時間がかかっても気長に待つケアを行っている。	